

i センタースタッフ研修会開催レポート

||| 実施概要

日時：平成17年11月28日(月)・29日(火)

場所：積丹町 研修会場_積丹町総合文化センター

懇親会場_御宿かさい

参加人数：1日目研修会40名(9名) 懇親会32名(10名)

2日目研修会18名(関係者8名含む)

参加人数は()内関係者を含む

プログラム：研修プログラム1「“しりべし流みち案内”マップをみんなでつくろう！」

研修プログラム2「後志の特産品を知ろう！」

本年度第2回目となるiセンタースタッフ研修会が11月28日(月)・29日(火)の2日間、積丹町の総合文化センター3Fで開催されました。参加されたスタッフは、16市町村の関係者の皆さんとiセンタースタッフの方々です。

晴天に恵まれた研修会の1日目、「“しりべし流みち案内”マップをみんなでつくろう！」では、現地調査・研修会場でのワーキング・意見交換を開催しました。

現地調査は、4つのグループにわかれ、さらに2台のバスに分かれて2つのコースを走りました。バスの中から自然物・地物・ビュースポット、道路案内標識等を調査票に記入するとともに気になるものをカメラで撮影し、会場に戻ってそれぞれのグループで現地調査の結果をまとめました。グループごとの発表は、実際に案内をするときのようにお芝居を含めて実践されるなど、それぞれの個性がキラリと光る、とても楽しく賑やかな発表でした。

研修会2日目は、持ち寄られた特産品について町村ごとに紹介し、試食しながら調査票へ感想を記入。後半のディスカッションでは、参加者全員の感じたままの生の声を聞くことができました。各市町村からエントリーされた「後志の特産品」が一同に並べられるという初めての試みで、厳選された逸品を目の前に、参加された人の味覚も知識も大いに満たされたことでしょう。

参加された方同士の関係も、以前よりずっと親密になった印象を受けた今回の研修会。それぞれの研修内容の結果は、担当のワーキンググループによって取りまとめられ、今回の研修会での成果となります。

過密なスケジュールの中、皆さん本当にお疲れ様でした！



こんなにたくさんの方が参加されました。



集められた数々の特産品

||| 実施内容

〈1日目〉

研修プログラム1-1

「しりべし流みち案内」マップをみんなでつくろう！ 12:30～

現地調査

最初に、研修会場でビデオやプロジェクターを使って事前説明が行われました。

食事をとった後、バスに乗り込みいざ出発。現地調査は美国を起点として、余市までを往復する班（A班、B班）と、神威岬までを往復する班（C班、D班）に分けられました。どちらも往復4.6kmほどで、走りながらの調査となりました。

班員が記録する気づいた点やビューポイントに合わせ、班長がポラロイド写真をとる役目だったのですが、それがなかなか難しかったようで、余市行きのバスは終始賑やかな盛り上がりを見せていました。



事前説明を受ける様子



バスの中での調査



研修プログラム1-2

ワーキング

現地調査終了後は研修会場にもどり、班ごとに撮ってきた写真を模造紙に貼りながら、現地調査の結果をまとめました。「このカーブを過ぎたときに海が見える」「とんがり屋根がおもしろい」などといった建物・景観的な話や「分かりにくい看板があった」「まんじゅうやの看板が目立っていた」などの標識・看板で気づいた点など、たくさんの意見が出ていました。それらをまとめた結果を基に、班ごとのオリジナルみち案内を作成してもらいました。



記録したものを模造紙に書き込んでいきます。

研修プログラム1-3

グループ発表

各班の発表者は、実際に積丹iセンターのスタッフのつもりでみち案内をし、行き先までの誘導だけでなく、途中の景観の見どころやオススメポイント、危険箇所などを加えて案内されました。発表は班ごとに個性が発揮される内容で、冬に案内する場合、お客さんが道外の人だった場合などが想定され、ユニークな発表となりました。



撮った写真と気づいたメモを貼りまとめたもの。

全体の総括では、現場スタッフならではの視点で「普段の道案内では所要時間や距離を言うことが多いので、マップに距離や時間を表すものがあるとよいのではないか。」「ワッ

カケトンネルのように狭くてトンネル出口に急カーブがある所には、マップに事前情報を記載しておくといいのではないか。」など、参加した皆さんからたくさんの意見が出されました。



中にはショートコントのように
愉快的な場面も。

【参加者のコメント紹介】

- ・ 普段気づけなかった地域を再発見することができ、とても充実した体験だった。
- ・ 班で作成したみち案内マップを使って、普段とはひと味違ったみち案内ができ、参考になった。
- ・ 地元人ならではのマップができればよいと思う。
- ・ 普段の案内の中でも多少景観も含めた言葉は伝えていたが、充分とはいえなかった。今後の参考にしたい。
- ・ 地元に住んでいても、まだまだ気づかない隠れている観光地・ビューポイントを皆さんと一緒に発見することができて勉強になりました。

i センタースタンプラリー抽選とキャラクター決定

今年度、i センタースタンプラリーの実施と一緒に募集されたキャラクターは、応募総数90通（応募用紙、はがきで84通、メールで6通）。なんと最優秀賞にはノートパソコンが当たる豪華なものでした。

キャラクターの決定は、当日参加された方に、1人5枚、赤丸のシールを渡し、気に入った作品5個に赤丸シールを貼ってもらい、赤丸シールが最も多く貼られた作品を「最優秀賞」、10番目まで多く赤丸シールを貼られた作品を「優秀賞」とします。

最優秀賞に決まったキャラクターは、担当者によりデータ化されてからお披露目になります。いよいよ「しりべしiネット」のキャラクターの決定ですね！



どれにしようか迷いますね～



スタンプラリーのA賞を抽選する小川原部会長。

懇親会（18：30～）

2日目のプログラムのためにエントリーされたお酒10種類は、翌日の朝から飲むわけにはいかないので懇親会のときにお披露目させていただきました。次号のジュジュでもお酒



が特集されるように、後志はお酒もとても充実していることがわかりました。積丹町では、「丹水」からできる酒粕で「甘酒」もつくられています。

「御宿かさい」さんの素晴らしいお料理と、各市町村から集められたお酒の数々。これで話が盛り上がりがないわけがありません。(話ばかりが盛り上がっていたような気もしますが) 小川原部会長から若いスタッフたちへ激励が飛ばされる場面もあり、「これからのiネットについて」熱く語られた今回の懇親会でした。

〈2日目〉

研修プログラム

「後志の特産品を知ろう」パート1 (9:00~)

当日のためにエントリーされた特産品は、全部で45種類！1日目で盛り上がりすぎるためか、2日は毎度のことながら参加者が少ないのですが、17市町村から集められた逸品を十分に味わうことができ、内容の深い研修会となりました。

参加されたのは9町村の方々に、それぞれ自分のまちの特産品を見ながら紹介していただきました。中には発売前の商品を試食することができたり、開発途中の商品についての資料が配られるなどしました。

出席されなかった町村のエントリー商品は、資料などを見ながら事務局から紹介させていただきました。

研修プログラム

「後志の特産品を知ろう」パート2 (11:15~)

全エントリー商品の紹介とひとつおりの試食が終了した後、全員で感想や意見を出し合いました。各市町村のオススメの逸品が一同に揃う機会はほとんどありません。そのことについて感激される方も多く、初めて知った商品を実際に試食できたということは大変有意義であったと感想をいただいています。

また、セレクション事業の今後の展開として、「iネットで後志セレクションを販売していくことで、収入源につながるのでは?」「後志管内の特産品が同一で買い求められる所(iセンター、iネット他)があってもよいのでは?」といった事業への発展を示唆する意見が出されました。

その一方で、「特産品をセレクトするには、ルールがしっかり決められていないと一商店

ニューフェイスの特産品も。
右は積丹町の「絵葉書付き切手シート」
左は規格外の野菜が立派な商品になった喜茂別町の「いなかのおもいやり」



見てください。この嬉しそうな顔！



前に出てPRしています。



聞いている人も真剣。



を紹介することは難しいのではないか?」「セレクションはセレクション、データベースはデータベースで考えるべき。」といった意見も出されました。

人数が少なかったことも幸いし、参加者全員から意見を聞くことができました。この盛り上がり冷めないうちに次への展開が期待されます。

【参加者のコメント紹介】

- ・ 1度きりでなく、定期的に継続し、話し合い、提案できるものになるといいと思います。担当者によって、温度差が出ると思いますが、そこはみんなの力でカバーできるのでは? という良い雰囲気を感じました。
- ・ 市町村の特産品についてわからない商品があり、とても勉強になりました。
- ・ 一同に各地域の商品が揃うことが、こんなにもおもしろいとは。個人的に購入していたものもあるが、商品としては知っていたけど買うまでには至らなかったものも試食できてよかったです。人に勧めるにはあじがわかってないと…。
- ・ 知らない町村の特産品もわかり、また食べたいと思える商品もあり、また一つ後志の良さを発見出来たと思います。
- ・ 味の地域めぐりを一気にした充実感がありました。
- ・ 後志の特産品(お酒部門・お菓子部門等)でベスト3を決めて公開すれば良いと思う。